

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572212678		
法人名	株式会社 松峰園		
事業所名	グループホーム 松峰園		
所在地	秋田県山本郡八峰町峰浜水沢字下カッチキ台41-58		
自己評価作成日	令和2年10月2日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年新型コロナウイルスの影響で、様々な活動が制限されました。それでもできることとして、昨年から利用していたインターネット動画を活用しました。歌や踊り・体操以外に、地域の祭りの動画も見ました。外出しないとみられないような物をインターネット動画でみることで、制限された生活の中ですが、少しでも楽しんでもらえているのではないかと思っています。
 家族との面会では、密室を避けて外の開放的な空間でできるよう、園庭にテーブルとパラソルを設置し対応しました。
 日々の生活は、利用者にもできることを手伝ってもらいながら、お互いに助け合いながら暮らしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和2年10月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隔年実施の外部評価の要件を満たしているにもかかわらず、訪問される緊張感を自ら求めあえて毎年受けている。職員がやってみようと思った事はすぐ実践するなど、意見をすぐに反映するようにしている。2ユニットの為、夜勤の時や災害の時は心強い。介護事業者を対象としたオンライン動画研修システムを導入し、プロの講師による講義の受講を可能にしている。レクリエーションが苦手な職員も、YouTube体操を取り入れることで気負うことなく楽しくレクリエーションが行われている。職員のチームワークが良く、苦手な事も認め合い、お互い助け合って仕事をしている。スタッフも得意不得意があるので補い合えば良いという考えが浸透した上で支援している為、離職率が低いホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の会議の時に、理念である「その人らしさを大切にしたい」暮らしが出来ているか確認しています。日々のケアの中で、理念を活かした取り組みができるように心掛けています。	職員は、理念を基に「ゆっくり過ごしてもらえれば」「生活しやすいように工夫できれば」と日々考えながら支援している。理念について、もう少し具体的なものにした方が良いのかな？と職員間で話し合うこともある。開所当時は、心身症状が比較的重い利用者が多く、介護に余裕がなかったが、現在はグループホームらしい生活が営めるようになり、当初作成した理念により近づいてきていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所から15年がたち、近隣の方には事業所の存在や利用者のことも理解していただいています。散歩中の利用者を見守ってくれる方もいて、良い関係が築けています。	みこしが滝に入るのは全国でも珍しいと言われている白瀑神社の例大祭では、男衆たちが白装束で御輿をかつぎ町内を練り歩いており、毎年の楽しみとなっている。今年はコロナ禍により、祭りが中止となったことを受け、職員のアイデアで、YouTubeを活用することで祭りを満喫することができた。利用者は、テレビに映った数名の知人の姿に和気あいあいと過ごすことができた。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通して、地域の方の意見を聞いています。認知症については、運営推進会議の中で伝えることはありますが、地域の方々に伝えることまではできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回ヒヤリハット報告と身体的拘束適正化委員会で話し合った内容を報告しています。その内容について意見交換を行い、より良いケアを提供できるようにしています。	コロナ禍のため、園庭にテーブルを設置して開催しており、外で開催したことを機に、参加メンバーで道路等の外回り点検の確認を実施している。元中学校の校舎を地域包括支援センターとして利用しており、同じくコロナ禍対策の一環として、一室を借りて開催する等、ホームなりに工夫しながら開催を継続できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、役場、福祉事務所それぞれと相談しやすい関係が築けています。困難事例についても適切な対応をいただいています。	自立度が高くホームの生活に馴染めない利用者について、地域包括支援センターや福祉事務所・社会福祉協議会等と密接に連携し、地域の関係機関が協力することで、アパート生活への移行を実現し、その後、地域からの支援を継続している事例が確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を設置し、定期的話し合いと見直しを行っています。玄関の施錠は、離園者がいるため行っていますが、1日に何度か開錠する時間を設けています。施錠については、当たり前にならないよう、毎回話し合いをしています。	介護事業者を対象としたオンライン動画研修システムを導入し、身体拘束防止に関しても、プロの講師による講義の受講を可能にしている。ソファの配置により、本人移動域を制限してしまった過去の事例を基に、職員の観察や気付きの大切さを共有することで、職員一人ひとりが身体拘束について理解するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メディパスアカデミー(パソコンの動画で学習できるシステム)を利用して、事業所内で研修を行っています。 日々のケアについても話し合い、振り返りができるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用中の方がいるので、職員は実際のやり取りを見て学ぶ機会があります。個々の必要性については、社協の担当者と話し合いながら確認しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安が残ったままの入所にならないように配慮しています。 在宅時の担当ケアマネジャーが家族との間に入り、最終的な確認をしてから入所することが多くなっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルスの影響で面会が制限されましたが、その代わりに家族とメールや手紙、電話でのやり取りをする機会が増えました。園での様子は、普段よりも伝えることが出来たように思います。家族の意見を聞くことに関しては、今年もアンケートを実施できないか考えています。	前回の外部評価を踏まえ、アンケート結果について職員間で話し合いを実施している。家族の意見を知る事で日々のケアに活かせる事は無いかを考えている。今後、コロナウイルスに関する家族アンケートを実施したいとのこと。	アンケート結果をまとめ、職員間での話し合いを実施しており、その結果を是非、家族にも公表する事に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の会議の時間に職員からの意見を聞いています。内容によっては、管理者が代表に伝えていきます。会議録を代表宛にFAXで送信して伝えることもしています。	修理の依頼や購入希望物品のカタログ、職員会議の記録等は、随時、管理者から社長へFAXで報告している。新入職員には、先輩職員が相談を受ける配慮等、職員個別の状況に合わせ臨機応変に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境についての自己評価を毎年行っています。職員の就業環境に対する考え方について、代表者・管理者が同じ目線で理解できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナウイルスの影響で、研修ができないため、事業所内でのみ研修を行っています。メディアパスアカデミーを利用したり、厚生労働省の動画でコロナウイルスの対策について学んだりしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八峰町の介護支援専門員連絡協議会に参加しています。地域の施設・在宅の状況について情報交換や研修を行っています。今年、6月に各事業所でのコロナ対策について話し合う機会があり、9月には認知症カフェについての研修を行いました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に出来るだけ本人に会いに行くようにしています。入所前の様子を見ることで、入所後の生活になじめるよう配慮します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は不安がないように対応しています。入所後も家族と連絡を取り、状況を報告します。面会に来られない家族には、写真を送って園での様子を伝えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者はこれまでの人生を生き抜いてきた強さを持っていることを忘れず、出来ることは最大限に活かして生活できるように配慮しています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方にいる家族や、面会に来られない家族には、メールや手紙・写真を送って日々の様子を伝えていきます。毎週、電話をかけてくれる家族もいます。困った時は家族に相談し、意見を聞くこともあります。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年は、地域の祭りの中止、スーパーへの出入りを控える、面会制限などで交流が難しくなりました。状況に合わせた交流を考えていかなければと思っています。YouTubeで以前の祭りの動画を見て、祭りに行った気分を少しだけ感じました。	コロナ禍で面会が制限される中、携帯電話を活用して家族へ本人の生活状況の写真を送信した。「家族間で共有してます。」と、思った以上に好評とのこと。	リモートを使っての面会を検討しているとの事なので、実現できることに期待したい。
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や性格を把握し、職員間で共有しています。お互いに嫌な思いをすることのないよう、配慮しています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても、必要に応じて相談を受けています。ご夫婦で先に旦那さんが入所していて、退所された後に奥さんの入所を受け入れたケースがありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を表現できる方が少ないので、日常の会話や行動から真意を汲み取るようにしています。変化があれば、毎朝の会議で時間を置かず話し合いを行います。常に一人ひとりに合った援助を提供できるようにしています。	利用者の様子を詳細に観察している。イライラしているようであれば、どこか身体の具合が悪いのか、リハビリパンツを脱ぎ棄てている時は、穿き心地が悪いのか等々、職員間で原因を考察し支援している。認知症状の進行は穏やかであり、急激な変化には、それなりの問題が潜んでいるはずと、一つひとつ丁寧に解決に向け取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から詳しく聞きます。在宅時の担当ケアマネとも連絡を取り、園での生活に馴染めるようにしています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録は1日1枚になっているので、1日の様子が把握しやすくなっています。1ヶ月表もあり、心身の状況の変化を確認しやすくしています。今年は特に熱や脈拍を注意して見るようにしました。ホーム日誌でも1日の全体の流れが分かりやすくなるようにしています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に変化があれば、その都度カンファレンスを行い、結果をケアプランに反映しています。1日ごとの記録用紙にもケアの内容を記載し、ケアプランに添ったケアを行っているか確認できるようにしています。 家族には、面会時に様子を伝えていきます。面会に来られない家族には、手紙やメールで伝えていきます。	排泄、食事等は、生きていくための基本的な事であり、その上で、その人らしくどんなふうにも暮らしたいかを、朝の会議や毎月のカンファレンスで話し合っている。転んだ時は、センサーの置き方を統一したり、ソファの置き方を工夫したりし、援助内容の実践記録を元にケアプランに反映させている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で必要なことは、記録しています。変わったことがあれば、職員間で話し合いを行い、情報を共有しています。話し合いの内容は、記録して介護計画の見直しに活かしています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は、いつものように外出することが出来ませんでした。それでも家族の状況が分かっている場合は、感染の可能性が低いと判断して、自宅に半日帰ることができた方もいました。 今のような状況の中でも、地域とのつながりを感じながら生活を続けるにはどうしたら良いか、考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・家族の希望に応じています。かかりつけ医以外の受診が必要な時は、本人・家族と相談し、適切な医療を受けられるようにしています。 歯科往診は、必要時に連絡すると、往診車で訪問してくれます。 薬局とも連絡を取りやすく、分からないことは相談しています。	週1回訪問看護を利用し、状態報告を行っている。施設に看護師もおり、密な連絡体制を行い、適切に対応している。かかりつけ薬局は必ず通院に付き添った職員に状態確認のための電話をしてくれるなど、良好な関係が築かれている。薬の間違いが無いよう、一包化や名前の印字等、細かい要望を伝え対応してもらっている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の状態に変化があれば、看護職員に報告し、確認してもらいます。 週に一度、訪問看護師が来ているので、利用者の報告をしています。対応の仕方についても相談しています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年は、入院中に面会することができませんでした。病院の地域医療連携室に問い合わせをして、入院中の経過を聞きました。不足分の荷物を届ける時には、看護師からその時の状態を教えてもらい、状態の把握に努めました。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを視野に入れた介護が必要だと判断した場合は、早い段階で家族と話し合いを行います。職員間でも話し合いを行い、看取りへ向けた援助について確認します。 日常生活を続けながら、自然な形で最期を迎えられるよう援助します。	開所以来、20名弱の看取りを行っている。本人や家族との話し合いが最も重要であると捉え、家族への説明や医師との話し合いを丁寧に行っている。職員が不安にならないよう、対応の仕方は都度説明し、支援している。事後の詳細な状況確認と共有を欠かさずに取り組んでいる。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年は、コロナの影響で実践訓練が出来ませんでした。急変時の対応については、研修動画を見て確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年、水害について話し合いをしました。事業所の近くの河川はどこにあるのか、土砂崩れが起こる場所はないかを確認しました。避難準備の段階で避難すること、避難場所はどこなのか、避難方法についてなども確認しました。ホーム日誌には、気象情報について記入する欄があり、注意が必要な時に確認しています。	九州での水害を機に、ホームとしての水害時の対応についてスタッフ間で検討している。日々の意識づけが大事であることを教訓に、ホーム日誌に「天気・災害情報」の項目を設けた他、データー放送の天気情報を注視する習慣をつけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応は、その場に家族がいても不快にならない対応であるかを意識しています。自分がされて嫌なことはしない、という当たり前のことを忘れないよう話しています。居室入口には、防災の暖簾を付けて居室内が見えにくくなるようにしています。	利用者一人ひとりの感性が違うように、各々得意不得意があることを意識して支援している。互いの相性もあることを理解しながら、利用者の尊厳を損ねない声掛けをし、チームとして助け合い協力し合いながら支援するよう心掛けています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を上手く表出できない利用者が多いので、本人の性格や普段の生活の様子を踏まえて対応しています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活は、それぞれの利用者に合わせています。食事・就寝・起床時間は、自由にしています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に依頼されて、職員が利用者の服を買いに行く時は、本人に似合うものを選ぶよう工夫しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、一人ひとりの嗜好に合わせ、食べたいものが食べられるように配慮しています。食欲がなくなっている方には、食べられるものを準備します。食べる量も考えて、一人ひとりに合わせて盛り付けています。朝食の時間は、それぞれの起床時間に合わせています。	美味しい食事を提供したいという信念の基、調理や献立作りの輪番制を廃止し、スタッフの特性を優先している。3食以外に提供を希望する方には、ホームなりに出来る限り対応している。又、テレビを観ていてラーメンが食べたいとなるとラーメンに変更するなど臨機応変にメニュー変更し食事を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎朝の会議で、利用者の体調を確認しています。食事摂取量が少ない方がいれば、栄養補助食品や本人の好みのものを準備して対応します。 水分摂取については、おいしく摂取できるように、お茶だけでなく、利用者の好みに合わせたものを準備しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る方には状態に合わせた物品を用意し、口腔ケアを行っています。毎食後が難しい方には、1日1回は丁寧に口腔ケアを行うことを目標に対応しています。 義歯洗浄には、食器用洗剤を使うと良いと教えてもらい、実践しています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿・便秘がない方でも、利用者の行動を見てトイレ誘導のタイミングを判断しています。夜間、ポータブルトイレを使用している方もいますが、日中は、ほとんどの方がトイレで排泄出来ています。 リハビリパンツ、オムツ、尿取りパットも個人に合わせた物を選んでいきます。肌が弱い方には素材にも気を付けています。	1ヶ月毎の個別のチェック表を基に、個々の排泄の自立に向けた取り組みを実施している。オムツ使用者各々の体調や好み、あるいは反応に合わせてオムツを選択する重要性を認識している。配達業者に依頼せず、一人ひとりに合ったオムツをそれぞれ選定しながら購入できるよう、ストアに購入に出かけている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないことの重要性を職員は理解しているので、排便の有無は必ず確認しています。排便時は、プリストルスケールを用いて職員間で情報を共有しています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態に合わせて入浴日や時間を決めていきます。夜間の入浴は難しい状況ですが、夕食後に入浴することもあります。寝る前の時間帯に入浴すると、ゆっくり眠れているように思います。 血行を良くするため、入浴剤を使用しています。浴室には時計と温湿度計を設置し、熱中症や長湯に気を付けて介助しています。また浴室には押しボタンがあり、介助が必要な時に、他の職員をその場を離れずに呼ぶことができます。	毎日入浴を実施しており、最低でも3日に一度は入浴できるようにしている。皮膚の弱い人は1日おきの入浴など個別に対応している。又、血圧の低い時等、その日その日で時間を調整する等し対応している。職員一人で無理のある介助で怪我をするより、2人や3人で安全に入浴介助するようにする等、利用者の安全を考えた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操などで身体を動かす時間を作るようにしているので、夜は眠っている方が多いです。就寝時の居室の温度や明るさは、個人の好みに合わせています。温湿度計を確認し、快適に休めるようにしています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、間違いのないように利用者の名前と服用時間を印字してもらっています。薬を渡す時は、利用者の名前と服用時間を読み上げて確認しています。 薬の用法・用量については、説明書をいつでも確認できるようにしています。気になることがあれば、すぐに薬剤師に確認しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	美容師の仕事をしていた利用者には、スタッフの髪をカットしてもらいました。カットするときには、表情が変わり、昔に戻っていたようでした。 掃除の得意な利用者には、スタッフと一緒に掃除をしてもらっています。窓ふきや、床のモップ掛けをお願いしています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年は、コロナの影響もあり、ドライブや買い物に行くことが難しかったです。 近隣の散歩、安全を確認した上で半日程度自宅へ帰る、定期受診に出掛ける等、出来る範囲で外出支援を行いました。	敷地内にあるいつもの散歩コースが定着している。理髪の希望があった際は、マスクをして対応してくれる床屋を選定し、職員が付き添っている。近隣にある運営推進会議のメンバーの自宅のバラ庭の散策は楽しみのひとつとなっている。見学訪問してくれる美容院が都合により中止となり、現在模索中とのこと。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が園で管理しています。必要な時に使えるよう援助しています。 自分で管理できる方は、本人に任せ、その状態を維持できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年、家族が面会に来られないこともあり、いつもより園での様子を写真で送る機会が多くなりました。家族と連絡のやりとりが、普段より多かったように思います。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室・ホール・脱衣場に温湿度計を設置し、快適な状態を確認しています。 ホールには果物や野菜、花を飾って季節感を採り入れています。 玄関・廊下にベンチや椅子を置いて自由に休めるようにしています。ホールは、利用者の動線を考えて家具を設置しています。	訪問時には食卓にカボチャが飾られており、野菜や花を飾り季節を感じられるよう工夫していた。飾られている野菜は、居室に持って行ったり、触れたり自由に鑑賞することができる。あちこちに椅子を配置し、自由に腰掛けられるよう配慮している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを多めに設置しています。 気の合った利用者同士で座って会話を楽しんだり、昼寝をしたり、それぞれ好きなように過ごしています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室での動線を考え、家具の配置を工夫しているので、安全に居室内を移動できます。一人ひとりの生活に合わせて、過ごしやすい居室になるようにしています。各居室に、ソファを設置しています。テレビを置いている方も多く、居室でゆっくり過ごせるようにしています。	自由に家具を持ち込む事ができる。開設後15年が経過しており、退去された方等から譲り受けたテレビやソファを活用している。どの部屋も殺風景ではなく、くつろげる空間となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分からなくなる方のために、居室の入り口には、目印になる物を付けています。トイレの場所も分かりやすくなるようにしています。 各居室前には、コルクボードを設置して、本人の写真や作品を飾っています。		